



2014年12月21日(日) 9:30-13:00 京都大学稲盛財団記念館 大会議室・中会議室

9:30-9:35 ご挨拶

9:35-10:15 研究報告1

「こころ観の変遷とこころの未来：仏教学からみたこころ観の時代的展開と地域的展開」
熊谷 誠慈（こころの未来研究センター 上廣こころ学研究部門 特定准教授）

10:15-10:55 研究報告2

「悩まないこころとの対話：臨床心理学からみたこころの現在」
畑中 千紘（こころの未来研究センター 上廣こころ学研究部門 特定助教）

10:55-11:25 ポスターセッション（大会議室）+休憩

11:25-12:05 研究報告3

「こころの学際研究の「つなぐ」価値：こころの未来の「未来」に関する考察」
吉川 左紀子（こころの未来研究センター 教授・センター長）

12:05-12:55 ディスカッション

島藺 進氏（上智大学グリーンケア研究所 所長）
増田 寿幸氏（京都信用金庫 理事長）

12:55-13:00 閉会のご挨拶

ディスカッサント プロフィール

島 蘭 進

上智大学 グリーフケア研究所 所長

1981年4月 東京外国語大学外国語学部日本語学科助手

1987年4月 東京大学文学部宗教学宗教史学科助教授

1994年1月 同 教授

1995年4月 同 大学院人文社会系研究科教授（～2013年3月）

2013年4月 上智大学グリーフケア研究所所長（～現在）

増田 寿幸

京都信用金庫 理事長、全国信用金庫協会 副会長、京都経済同友会 代表幹事

1975年 京都大学 理学部卒業、京都信用金庫入庫

1979年 米国のミシガン州の銀行で1年間研修

1996年 理事に就任

2008年 理事長に就任

研究報告 1

こころ観の変遷とこころの未来：仏教学からみたこころ観の時代的展開と地域的展開

熊谷 誠慈（こころの未来研究センター 上廣こころ学研究部門 特定准教授）

仏教は今からおよそ 2500 年前にインドで誕生した。現在のインド・ネパール国境周辺のローカルな宗教であった仏教は、紀元前 3 世紀にはインド全土に広まり、以後、南アジア、東アジア、東北アジアの各地域へと広く伝播した。仏教は有力な外来宗教として、数多の国々に大きな思想的影響を与えた。中でも、仏教の「こころ観」の影響は特筆に値する。そもそも仏教は苦悩の解決を何よりも優先するが、その苦悩を生み出すのは「こころ」に他ならない。従って、仏教は誕生以来、「こころ」の研究に熱心に取り組んだのである。

本研究報告では、仏教的な「こころ観」がインドにおいてどのように生まれ、発展し、さらにインド国外でいかなる展開を遂げたのかを概観する。7 世紀にインドからチベットに伝わった仏教は、その後、チベットからブータン（8 世紀）、モンゴル（13 世紀）、清朝（17 世紀）へと伝播し、「チベット仏教文化圏」を形作るに至った。そこでは、インド仏教の「こころ観」が忠実に受容・継承された。一方、チベットの土着宗教である「ボン教」は仏教の「こころ観」を吸収し、独自色を加味した「こころ観」を構築した。すなわち、仏教の「こころ観」は異宗教にまで影響を及ぼしたのである。また、上記の地域に流布した仏教は、わが国古来の仏教とどのような関係にあるであろうか、この点についても、両者の「こころ観」を中心に議論を行いたい。

研究報告 2

悩まないところとの対話：臨床心理学からみたところの現在

畑中 千紘（ところの未来研究センター 上廣ところ学研究部門 特定助教）

20世紀初頭に成立した心理療法は、いわゆる近代意識を前提としたシステムといえる。すなわち、ところという「内面」があり、それを振り返る内省的な意識が想定されていたからこそ、葛藤や抑うつといった心理的問題が生じてきたと考えられる。ここにおいて、悩みや問題は単に除去すべき障害物というよりも自らのところに取り組んでいくための入口としての意味を持つと考えられた。いっぽう、2000年代以降の心理療法の現場においては、葛藤や悩みといった形の語りがみられない事例が増加してきている。問題が生じてもそれを自分と関連づけて捉えることがなかったり、問題解決を丸投げにするような場合さえみられ、クライアントの「内面」に生ずる変容をひとつの目的としてきた心理療法のパラダイムは綻びをみせはじめている。こうした「悩まないところ」の出現は心理療法場面に限らず、社会構造の変化、我々をとりまく生活のしくみの変化にともなって、現代の人々のところ全体が変わりつつあることの反映と考えられるだろう。

本研究報告ではまず、近年の心理療法場面で感じられる「悩まないところ」について概観した後、大学生を対象にした調査研究について報告する。これは、ロールシャッハ・テストと室内画を用いた調査であるが、特に「家」というイメージについて、外側と内側の両方から描くことを課す室内画は、自己意識、関係の持ち方、内面や境界のあり方の一側面を示してくれると思われる。現代を生きる若者のところの現況から、心理療法や臨床心理学の現代的意義とあり方、さらには「私たちのところが何を求めているか」という全体テーマについても議論したい。

研究報告3

「こころの学際研究の「つなぐ」価値：こころの未来の「未来」に関する考察」

吉川 左紀子（こころの未来研究センター 教授・センター長）

「こころ」の研究といえば、心理学者や脳科学者の仕事だと考えがちだが、宗教学、倫理学、精神医学、経済学、人類学、そして理系サイエンスの先端をゆく情報学も、人間のこころのはたらきと密接につながる研究を行っている。こころの未来研究センターは、そうした広大な学問領域に開かれた学際的な研究の場として活動してきた。学問領域の境界を越えて生まれる「こころの知」を「こころ学」として集大成し、それを必要としている人たちに広く発信していくこと、また、京都という地で育まれた「こころの知」を世界に向けて発信していくことは、こころの未来研究センターが担う、もっとも重要な仕事であり責任であると考えている。

困難なことの多い現代社会の中で、「こころの知」を必要としている人たち、人に関わり人を育て、人を支える仕事に就いている人たちに、どうすれば私たちの仕事の成果を伝えることができるのか、そのためのよりよい仕組みを考え、積極的に試してゆくこともセンターの仕事である。

本報告では、センターでこれまで行ってきた学際研究の例を取り上げて、（１）学際研究を育てる方法、（２）実社会とつなぐしくみ、（３）学際研究の「場」の重要性、について、最近考えてきたこととお話したい。

連携プロジェクト ポスター番号一覧

No.	プロジェクト名	研究代表者
1,2	こころ学創生：教育プロジェクト	吉川左紀子
3	連携 MRI 研究施設における認知神経科学の教育事業の展開	阿部修士
4	東日本大震災関連プロジェクト～こころの再生に向けて～	鎌田東二
5	科学と思想・哲学との対話を通じたこころ観の再構築	熊谷誠慈
6	孤立防止のための互助・自助強化プログラム開発研究 -京町家「くらしの学び庵」プロジェクト-	清家 理
7	組織文化とこころのあり方：日本における企業調査	内田由紀子
8	農業・漁業コミュニティにおける社会関係資本	内田由紀子
9	対人相互作用に関わる認知・感情機能	吉川左紀子
10	環境要因が潜在的認知に及ぼす影響	上田祥行
11	遂行機能の実行に関わる前頭葉ネットワークの解明	船橋新太郎
12,13	発達障害の学習支援・コミュニケーション支援	吉川左紀子
14*	大人の発達障害への心理療法的アプローチ	畑中千紘
15*	子どもの発達障害への心理療法的アプローチ	河合俊雄
16*	身体疾患・症状に関する心理療法の研究	河合俊雄
17*	こころの古層と現代の意識	河合俊雄
18*	不正直な行動の神経生物学的基盤の研究	阿部修士
19*	倫理的観点に基づく認知症介護の負担改善	清家 理

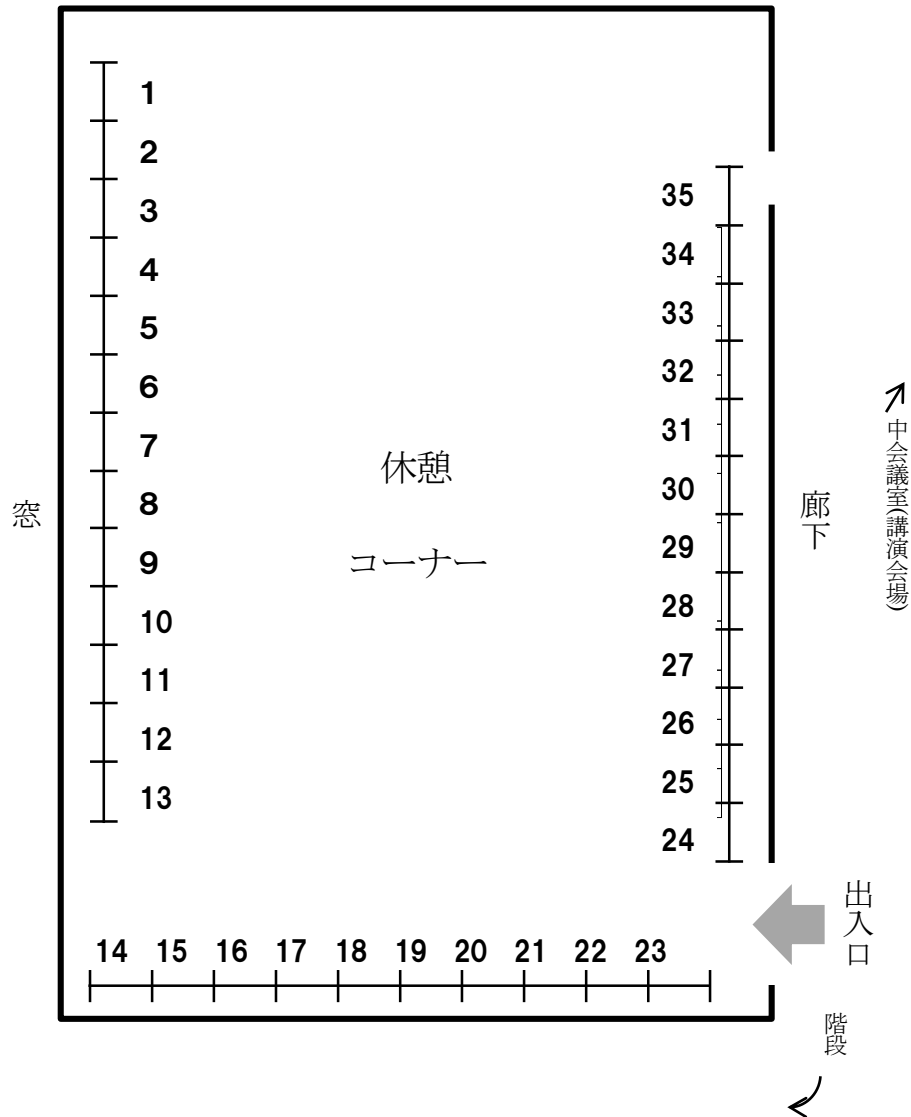
No.	プロジェクト名	研究代表者
20*	出生をめぐる医療と倫理	カール・ベッカー
21*	終末期に対する早期支援	カール・ベッカー
22*	生態智の拠点としての聖地文化—こころ・場所・癒しの研究	鎌田東二
23*	こころとモノをつなぐワザの研究—伝統芸能・武道における心技体の研究を中心に	鎌田東二
24*	こころ観の研究	鎌田東二
25*	地域の幸福プロジェクト	内田由紀子
26*	国民総幸福（GNH）を支える倫理観・宗教観研究	熊谷誠慈
27*	ヒマラヤ宗教精神の研究	熊谷誠慈
28	被災地のこころときずなの再生に芸術実践が果たしうる役割を検証する基盤研究Ⅲ	京都造形芸術大学教授・大西宏志
29	身体と象徴：かたちとちから—力のでる形—	山梨大学准教授・木村はるみ
30	子どもの発達障害と作業療法	追手門学院大学准教授・長岡千賀
31	発達障害のある子どもとの類推及び表出課題を媒介とした相互交渉の検討：STによるコミュニケーション支援の分析を通して	大阪保健医療大学講師・工藤芳幸
32	自然のもつ文化的・教育的・芸術的価値とは：市民の価値判断を反映したマネジメントに向けて	京都大学准教授・伊勢武史
33	心理療法場面に見られる象徴化機能の現代的問題に関する臨床心理学的研究	東洋英和女学院大学准教授・前川美行
34	高齢者の認知能力に及ぼす運動の影響	熊本大学教授・積山薫
35	甲状腺疾患におけるこころの働きとケア	京都文教大学講師・長谷川千紘

*上廣こころ学研究部門

ポスター会場 稲盛財団記念館 3F 大会議室

ポスター会場オープン 9:00～

ポスターセッション 10:55～11:25



■上廣こころ学研究部門とは ■



京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研究部門は2012年4月に設置されました。現在、心理学、神経科学、宗教学、医療倫理学など「こころと倫理」に関わる多様な専門分野の若い研究者が集い、日々研鑽を積みながらさまざまな研究活動やアウトリーチを行っています。このポスター会場でも16のプロジェクトが研究成果を提示しています。実践知・伝統知・潜在知のあり方を探求し、現代社会を生きる価値を提言するために今後もさまざまな形で社会発信を行います。

研究報告会終了後のポスターは、こころの未来研究センターで保管いたします(センターの廊下などに掲示させていただきます)。終了後の撤去はセンターのスタッフが行います。